

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：山本・澤村]

TEL：0853-22-6904

FAX：0853-24-3342

令和6年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号（新病害虫発生情報）

令和7年1月9日  
島根県病害虫防除所

本県において、ケブカニセノメイガの発生が初めて確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ケブカニセノメイガ（旧和名ケブカノメイガ）
- 2 学名 *Crociodolomia pavonana* (Fabricius)
- 3 作物名 アブラナ科野菜

#### 4 発生確認の経緯

令和6年9月中旬、県西部の露地栽培キャベツにおいて、葉の裏面にうろこ状の卵塊を確認した（図1）。この卵塊を採集し飼育後、農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、10月30日に本県では未発生のケブカニセノメイガと同定された。なお、その後の被害は確認されておらず、周辺ほ場においても発生は確認されていない（12月12日現在）。

#### 5 国内外における発生状況

国外では、台湾、東南アジアおよびインドなどの熱帯～亜熱帯に広く分布する。本種の幼虫は主にアブラナ科を加害し、東南アジアではアブラナ科野菜の重要害虫となっている。

国内では、1987年に沖縄県の石垣島において幼虫によるアブラナ科野菜の被害が初確認され、1989年以降には定着し、夏期のアブラナ科野菜の害虫となった。また、1990年には静岡県でも発生が確認されている。以降は愛知県、兵庫県と相次いで発生が確認され、近年では2010年に東京都で、2016年には鹿児島県でそれぞれ特殊報が発表されている。

#### 6 被害の特徴

幼虫は葉上で少量の糸を吐き、わずかに葉を綴って生息する。若齢幼虫は太い葉脈や中肋を残して集団で食害し、特にアブラナ科野菜等では成長点付近を食害するため被害は大きい。キャベツでは、1株から老熟幼虫が50頭も確認された報告がある。

アブラナ科野菜のほか、ウリ科やキク科の野菜に加え、クレオメ（フウチョウソウ科の草花）等も食害する。

#### 7 形態及び生態

幼虫の体長は終齢で約15mmとなる。体色は淡緑色～暗緑色で頭部は淡褐色。背線と亜背線の3本は細く白い。各節に3対の黒点（刺毛基板）が目立つ（図2）。蛹は体長約10mmの薄い茶褐色で、葉上や地表面で葉や土を巻き込んだ繭を作る。

成虫の開長は 22-24mm、前翅の地色は黄褐色で、中央よりやや外側に顕著な 2 個の白い斑点がある。雄の前翅基部寄りの前縁付近には黒褐色の束毛があり、和名の由来となっている（図3）。卵は数十個からなるうろこ状の卵塊で、主に葉裏に産み付けられる。

## 8 防除対策

- 1) 現在、本種に対しての登録薬剤はない。
- 2) 本種は卵塊で産み付けられ若齢幼虫は集団で生息しているため、発生初期は局所的である。早期発見に努め、発生を確認した株は抜き取り処分する。

## 9 参考資料



図1 キャベツ葉裏面の卵塊

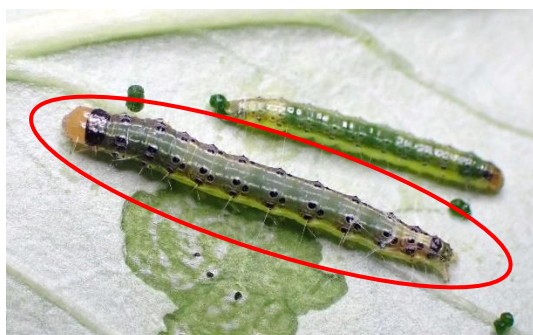


図2 老熟幼虫



図3 ケブカニセノメイガ成虫（左：雄、右：雌）



図4 キャベツ葉を食害する様子